

**ENEOS****東京農業大学****名鉄観光**

2025 年 11 月 25 日

中学生・高校生向けの探究学習プログラム実施について ～北海道オホーツクの農作物の持続可能な航空燃料（SAF）の原料への活用を考える～

ENEOS 株式会社（以下、ENEOS）、東京農業大学および名鉄観光サービス株式会社（以下、名鉄観光サービス）は、過日、恵泉女学園中学・高等学校、昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校、東京都立園芸高等学校および東京農業大学第一高等学校・中等部（50 音順）の 4 校の生徒計 39 名を対象に、北海道にて持続可能な航空燃料（以下、SAF：Sustainable Aviation Fuel（通称：サフ））をテーマとした探究学習プログラム（以下、本プログラム（※））を実施しましたので、お知らせいたします。

探究学習とは、文部科学省において探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指としています。

東京農業大学北海道オホーツクキャンパスが位置する北海道オホーツクは、日本で高い食料自給率を誇ります。本プログラムでは、世界的な脱炭素化の動きに注目し、特に、食品廃棄物や農業廃棄物などのバイオマス为原料とする SAF について、生徒は北海道オホーツクの農業や農作物を学びながら、これらを SAF の原料として活用できるのか考えました。

また、2025 年 8 月 25 日から 28 日の北海道オホーツクでの現地研修に先立ち、生徒は ENEOS による事前授業を受け、SAF について学習しました。現地研修では、「オホーツクおよび現地の農業について知る」、「農業とバイオ燃料原料の関係を知る」、「航空業界から見たバイオジェット燃料について知る」というテーマのもと、生徒は参加校の枠を超えてグループを編成し、実際に農家や企業を訪問し、現地での体験や、農家、企業の方々との交流を通して、理解を深めました。

現地研修後、生徒はグループごとに、上記テーマについて ENEOS に対してプレゼンテーションを行いました。生徒からは、北海道の気候、社会問題、SAF の政策動向や食との競合を考慮したうえで、SAF の原料として、魚のあらや内臓、甜菜（ビート）、スイートコーン、サツマイモ、米、家庭から出る廃食油、ヒマワリの活用等が提案されました。

ENEOS、東京農業大学、名鉄観光サービスは、今後も SAF の啓発・普及をはじめとする温室効果ガスの排出量の削減に取り組み、持続可能な社会の実現に向け貢献してまいります。

※本プログラムは、ENEOS、東京農業大学、名鉄観光サービスで企画を行い、名鉄観光サービスにて運営を実施しました

※ENEOS は、2024 年度に採択された、「バイオ燃料活用における事業化促進支援事業（令和 6 年度東京都助成事業）」の一環として、本プログラムを企画・実行しました

【生徒によるプレゼンテーション終了後の様子】



<本件に関するお問い合わせ先（報道機関の方）>

ENEOS 株式会社 広報部メディアリレーショングループ Email: pr@eneos.com

東京農業大学 学長室 企画広報課 TEL: 03-5477-2650 / FAX: 03-5477-2804 / Email: info@nodai.ac.jp

以 上